

会議名	第3回港区南麻布学童クラブ運営事業候補者選考委員会
開催日時	令和元年9月20日(金) 18時から 20時まで
開催場所	港区役所5階 512会議室
委員	出席者 5名 岡田委員長、有賀副委員、安梅委員、請川委員、野上委員
事務局	麻布地区総合支所管理課 加茂課長、施設運営担当 駒井係長、漆家、川上
傍聴者	なし
会議次第	1 開会 2 議題審議 議題1 第二次審査(プレゼンテーション及びヒアリング)について 議題2 指定管理者候補者の決定について 3 閉会
配付資料	[席上配布] 資料1 第二次審査(プレゼンテーション・ヒアリング)方法について 資料2 第二次審査(プレゼンテーション・ヒアリング)表 資料3 第二次審査(プレゼンテーション・ヒアリング)評価用メモ 資料4 第一次審査集計表 資料5 第二回港区南麻布学童クラブ運営事業候補者選考委員会会議録
会議の結果及び主要な発言	
事務局	1 開会 事務局より本日のスケジュールについて説明
委員長	2 議題審議 議題1 第二次審査(プレゼンテーション及びヒアリング)について (A事業者によるプレゼンテーション実施) それでは、これからヒアリングに入ります。
C委員	学童クラブの運営として子どもを第一に考えることを大切にしたいとのことでしたが、具体的にどのようなことをやっていきたいと考えていますか。
A事業者	現在の施設でも、子どものことを考えて活動を行っています。 具体的には、子どもたちの会議の場を設けています。毎日帰りの会で子どもたちから「今日はこんなところがよかった」「こんなところが駄目だった」といった話を聞く場を設けています。そういった意見から施設の運営に活かしていければと考えています。

	<p>その会議の中で「こんなイベントをやりたい」「こういうルールがあったらいいのではないか」といった意見を子どもから出してもらうことで、子ども第一・子ども主体で施設運営をすることができ、我々は道筋を示しつつ、子どもの意見を尊重しながら運営していくと考えております。</p>
<p>C委員 A事業者</p>	<p>子どもたちから様々な希望や要望が出た中で、実現が難しいことはありましたか。 実際に、実現が難しい提案もたくさんあります。 ただ、それでも、「こういうことだったらできるよ」「こういうふうにしてみたらどうだろう」という提案や声かけをすると、子どもから「じゃあこうしてみよう」と、子どもたちが無理なことも踏まえた上での意見を考えるようになります。我々はそのようなフォローをしています。</p>
<p>B委員 A事業者</p>	<p>今まであった最悪のヒヤリハットとその予防対策を教えてください。 実際にあった経験をお話しします。母親が親権を持つ母子家庭の児童の父親が「連れて行きたい」と学童クラブに入ろうとしました。事前に母親から父親の話はなく、母親に連絡すると、「在籍していないことにしてほしい」とのことだったため、子どもに会わせないよう努めました。その後1週間程、父親が校門や学童クラブの前で待っていることがあったため、母親と話して裏門から入ったり、学校までお迎えしたりといった特別対応を続け、父親には根気よく在籍しない旨を伝えたことで大きなトラブルは回避できました。事前に保護者と連携することで、トラブルを未然に防ぐことができました。</p>
<p>B委員 A事業者</p>	<p>予防対策はどのようにしましたか。 事前にそのようなご家庭がありましたら、入会の時点で保護者とお話をしています。「予防したほうがいいことはございますか」といった形で全ご家庭に話をし情報把握をします。</p>
<p>B委員 A事業者</p>	<p>もし連絡がとれなかったらどう対処しましたか。 まず、我々が父親の話を聞いて、状況判断しようと思っっています。そこで、おかしい事態だと判断した場合には、本部に連絡し、区にも相談します。</p>
<p>B委員 A事業者</p>	<p>保護者や児童が、日本語がわからない場合はどのように対応していますか。 現在の施設と同様、外国語が堪能な職員を配置します。</p>
<p>B委員 A事業者</p>	<p>何ヶ国語対応できますか。 基本は英語です。</p>
<p>E委員 A事業者</p>	<p>施設長になる基準、キャリアルールといったものは御社にありますか。 まず、各自治体での基準は最低限満たしていることです。社内としては、施設長の資格要件があります。実力がある人間を選抜して長期の研修を受けさせ、検証を行います。OJTのレベルも見ますし、知識面でのテストもあります。その後、総合的に判断し、施設長の資格を有する者として、昇格をさせます。その中で、実際に見て、施設長としての資質があるかを判断します。</p>
<p>E委員 A事業者</p>	<p>施設長候補者が施設長を勤めた場合、短期間で異動されてしまうと困ります。人事ローテーションはどのように考えていますか。 施設長や施設長に準ずるような重要な役割を担う人材に関しては、最低3年は動かさない方針です。</p>
<p>E委員</p>	<p>若いスタッフは比較的兄弟のような関係で児童と付き合う一方で、ベテラン職員にも抑えになっていただきたいと思いますと考えています。年齢構成はどのようにお考えですか。</p>

A事業者	<p>児童福祉の経験だけでなく、人生経験という意味でも多様な経験をした職員がいることが子どもの育成上良いと考えています。そのため、高齢の職員や主婦層の職員など様々な職員が特に非常勤として勤務しています。</p> <p>実際、彼の部下として、年齢が上で経験が長い人も配置をしており、よくマネジメントしています。当施設でも同様にと考えています。</p>
D委員	<p>障害のある子どもの配慮について、健常児にも理解をしてもらうという記述がありましたが、どのような機会を設けるのか、具体的な方策があればお聞かせください。</p>
A事業者	<p>実際に障害のある子どもへの支援をした経験があります。障害者を持つ児童には一人ひとりの特性に合った対応をとろうと思っております。</p> <p>周りへの理解については、障害の度合いによって対応は異なると思っております。重度の子に関しては、周りへの理解を徹底します。職員から他の児童へお伝えしようと思っております。子どもによりわかりやすく伝えるために、絵や写真を使って対応しようと考えています。ただ、軽度な障害を持つ子に関しては、基本的に他の子と同様の対応をしていきたいと思っております。特徴に合った対応はしますが、先入観を持たずに、一人ひとりの個性に合った対応をしようと思っております。</p>
D委員	<p>ワークライフバランスの大賞受賞について、何が評価されたとお考えですか。</p>
A事業者	<p>ワークライフバランスを支援する企業としての受賞でございます。</p> <p>働いている会社の受賞に関して、従業員が評価したものが採点されています。実際に、労働時間を具体的に毎年、少なくする取組を行っています。無駄がないように効率化を図るということを現場でも本部でも様々な活動で行いました。</p>
D委員	<p>最後に、自主性・社会性の育成という目的について、具体的なやり方、今やっていることがあればご披露ください。</p>
A事業者	<p>子どもたちの自主性を引き出すためにコーチングという手法を行っています。</p> <p>コーチングとは、子どもから傾聴し、質問し、承認をすることです。トラブルが起きた際や子どもたちが何かを決める際に、このコーチングという手法を使います。子どもたちから意見を引き出し、認め、どうするかという質問をする。それにより、子どもたちの自主性・社会性の成長を促していくことができると考えております。</p>
A委員	<p>施設長候補者は、最優秀リーダーに選ばれたとのことでしたが、どのようなところがリーダーとしてふさわしいとお考えですか。</p>
A事業者	<p>現在、20代から60代までの年齢の職員と勤務しています。リーダーとして、示す方向は定めつつも、職員の意見もしっかりと聞くように心がけています。職員からの意見をないがしろにせず、子どもたちと同様にコーチングを使って、「その意見いいですね、じゃあ学童でどう使っていきましょうか」というように、全員で考えています。子どものために考えて運営をしていくことで、評価を受けたと考えております。</p>
A事業者	<p>コミュニケーション能力が長けており、部下や保護者、子どもとのコミュニケーションがしっかりできています。施設長候補者の下で働きたいという職員も多く、人事交流として研修に行きたいという話もあります。とても良い雰囲気のチームを作っていると思います。</p>
委員長	<p>それでは、時間となりましたので、プレゼンテーション及び質疑を終了いたします。 (A事業者退席)</p>

	(B事業者によるプレゼンテーション実施)
委員長	それでは、これからヒアリングに入ります。
C委員	学童クラブ施設長として一番大切にしたいことは何ですか。
B事業者	子どもたちが安全で安心して過ごせるということ、保護者の方が安心して子どもたちを預けられる環境を作って運営するということを大切にしています。 そのためには、地域や、関わる皆様と心を合わせて運営をしたいと考えています。
C委員	南麻布の地域特性や学童運営するにあたっての地域の状況、様子を課題に上がるのではないかと考えられることがあれば教えてください。
B事業者	南麻布に関して、大きな道路があり、交通量がとても多いと感じています。 施設の見学をしましたが、施設の隣に駐車場があり、車の行き来が多いという印象があったため、児童が学校から学童クラブに入室するまでや帰宅の時に安全に通えるように、職員がフォローすることが大切だと感じています。 また、大使館が多いため、様々な国の児童がいると思います。子どもたちが、いろいろな国やその国の言葉、人々を理解できるような取組をしたいと考えています。
B委員	これまでで経験した最悪の事故と対応、予防策を教えてください。
B事業者	最近あった事故は、自転車と子どもの接触事故です。その時には、すぐに救急搬送の対応をし、保護者や所管課、本部に連絡をしました。迅速な対応を心がけています。 事故や、保護者からのご意見があったときは、しっかりと迅速に対応できるように努めていきたいと考えています。
B委員	予防策はどうされましたか。
B事業者	予防策に関しては、「自分の身は自分で守る」という子どもたちへの指導と地域の警察署や消防署との訓練といったことが考えられます。実際に、交通安全課の職員に子どもたちへの指導を実施していただいています。 また、毎月様々な避難訓練を実施しています。これらにより、子どもたちに「自分の身は自分で守る」ということを伝えられていると感じています。
B委員	ヒヤリハットが起きたときにはどんなふうに対応されていますか。
B事業者	ヒヤリハットが起きたときには、その日に職員で情報共有し、改善するように心がけています。既存施設では、遊戯室内の、角張ったところに軽く頭をぶつけてしまうことがありました。何も保護をしていなかったため、すぐにクッション材を買って貼り付ける対応をしました。このように、大きな事故にならないように、何ができるかをみんなで考えて対応をしていくようにしたいと思っています。
E委員	当施設長候補者は現在勤務されている施設に30年4月に異動されていますが、来年4月からその施設は大丈夫でしょうか。
B事業者	地域の方や複合施設内の方々とも良好な関係が築けていまして、保護者からも協力とご理解いただいた運営ができているため、大丈夫だと言えます。 私自身も新しい施設にチャレンジしたいという気持ちがあります。
B事業者	本部としては、現在港区内で運営している6施設で勤務している港区の運営に慣れた職員たちが異動し、運営に携われるように検討させていただいております。 既存施設の運営にも支障がないよう配慮しようと考えているため、ご安心ください。
E委員	継続性の高い職員の配置について自信があるとのことでしたが、実際の御社の離職率

	を教えてください。
B 事業者	学童事業において、平成30年度の離職率は8%、29年度も1桁台です。 事業が年々増え、新規採用している状況ですが、およそ8~9%で推移しています。
E 委員	最後に、施設長候補者のこれまでの経験として、新規施設へ異動したことがあるのか、前任者から引継いだ自社内の異動したことがあるのか教えてください。
B 事業者	自社内の異動も、新規施設への異動も経験しています。「できることを一生懸命やる」ということをモットーに、様々なことに挑戦したいと思っています。
D 委員	児童の相談への対応について、非常に大事だと思いますが、子どもが話をしやすい状況を作るために工夫していることがあればご披露ください。
B 事業者	職員が日々、子どもが相談しやすい雰囲気子どもたちと関わることが大前提だと思います。また、児童専用のご意見箱に悩み相談の投函があった場合には、すぐにその児童と話し合っ解決するようにしています。
D 委員	地域参加型プログラムとの記述がありますが、周辺地域と一緒に何かやるということは難しいと思います。具体的に地域の人と相互に交流できる関係を築くためには、どのようなことをすればよいか、考えがあればお答えください。
B 事業者	私は、港区の広報誌をよく見て、その中で「こういうことができます」「こういうことをやりたい」というボランティアの方々の記事があるとその問合せ先へ連絡し、繋がっていくということをしています。人と人とのことなので時間はかかりますが、顔を合わせて話をして繋がっていくということが大切だと思っています。
A 委員	施設長候補者以外に、副責任者や放課後児童支援員、常勤職員複数名を準備することですが、南麻布学童クラブという特色からどのような候補者を考えていますか。
B 事業者	常勤職員を6名検討しており、既存施設からの異動を半数ほど考えています。 また、国際色豊かな地域のため、英語が話せる職員が絶対に必要だと思います。 既存施設でもお便り等の英語版が必要です。さらに、入会等の際に保護者へのフォローが必要ですので、しっかりと対応できる職員を配置したいと考えています。
A 委員	地域企業の方々との協働とありますが、連携したい企業はありますか。
B 事業者	具体例として、実際に広報誌で見つけて、現在動いている取組についてお話しします。 赤坂のTBSの8階に蜂を育てる取組をしている方と連絡を取り、来年の春以降に見学会の実施を考えています。TBSの担当者は、このような活動や取組を港区の子どもたちに還元していきたいと言っていました。このように、繋がっていき、様々なところでこのような取組を開催していきたいと思っています。
委員長	それでは、時間となりましたので、プレゼンテーション及び質疑を終了いたします。 (B 事業者退席) (採点・休憩)
事務局	議題2 指定管理者候補者の決定について 採点集計結果について説明 【A事業者】 第一次審査 837点 第二次審査 415点 合計点 1,252点 【B事業者】 第一次審査 731点 第二次審査 415点 合計点 1,146点

委員長	各委員から講評をお願いいたします。
C委員	私は、A事業者さんを高めに評価しました。何を一番大事に考えるかという質問で、A事業者は子ども中心に考えて回答していました。一方で、B事業者は安全と保護者のことを答えていました。学童クラブは子どもたちの場であり、子どもの意思をどう汲み取るかということが大切だと思います。
B委員	B事業者については、施設候補者が具体例として話していた蜂を見に行くという取組を聞いて、積極的に動いて取り組む姿勢は評価できると思いました。 私は、両事業者に危機管理のことを聞きました。 まず、A事業者の施設長候補者は危機管理としては少し危ないと思いました。 なぜかという、リスク管理のためには、すぐに横縦の連携を取って対応する必要があります。しかし、経験不足からなのか、十分にできるか不安を感じる回答でした。 一方で、B事業者の方はそれをしっかりと踏まえた回答をしていたため、危機管理の面では安心だと思いました。 それ以外の部分は、A事業者もB事業者もほぼ変わらないと考えました。 よって、20点程多くB事業者につけました。
E委員	私も施設長候補者と安全への受け答えを見て、10点差でB事業者を評価しました。 本部体制や企画書の提案や職員配置に関しては、両者ともに心配がなく、同等でした。 A事業者の施設長に関しては、自社では相当高く評価されていますが、B事業者の施設長候補者には経験に裏打ちされた安定感が見られました。
D委員	私は5点差でA事業者を評価しました。実現性で差がつかしました。 相談体制や障害者対応、地域との関わりといった話を伺いました。私の質問に対しては、A事業者の方がより具体的に的確に答えていたと思い、Aを評価しました。
A委員	私はA事業者を90点、B事業者を80点としました。 差があったのは学童クラブ事業に対する姿勢で、A事業者の方が明確な理念でした。 職員についても、B事業者の施設長候補者は、質問に対しては的確に答えていましたが、プレゼンテーションの冒頭部分が資料の棒読みだったことが気になりました。 また、A事業者の方が特色ある職員を配置しており、安心できると思いました。
委員長	点数の修正はございますか。
全委員	ありません。
委員長	それでは、第一次審査・第二次審査合計点数及び順位を発表します。 1位 A事業者 合計点数 1,252点、 2位 B事業者 合計点数 1,146点 よって、港区南麻布学童クラブ運営事業候補者は1位のA事業者でよろしいですか。 (承諾)
全委員	
委員長	それでは、当委員会として、港区南麻布学童クラブ運営事業候補者は、A事業者と決定します。
	3 閉会
委員長	以上をもちまして、港区南麻布学童クラブ運営事業候補者選考委員会を終了します。